

英米文化学会会報

第 53 号

平成 14 年 10 月 20 日版



第 20 回大会も無事終了
地元・函館新聞にも紹介されました

目次

英米文化学会第 110 回例会開催のお知らせ(発表レジュメ付き)
平成 15 年度学会暦
『英米文化』投稿希望者へのご案内
分科会のご報告
「フォーラム 2003 受験英語を考える」の予告
事務局からのお知らせ

英米文化学会第 110 回例会開催のお知らせ (開催場所にご注意)

表記の会を下記の要領で開催します。

本年最後の例会となりますので、万障お繰り合わせの上、ぜひご出席ください。

日時： 平成 14 年 11 月 16 日 (土) 午後 3 時より午後 5 時まで、2 時半受付開始

場所： **青山学院大学** 11 号館 2F 1123 号教室、1122 号教室 (休憩室)

午後 5 時半より懇親会

*当日は、11 号館の 3F 以上には行かないようにと連絡が来ています。ご協力ください。

*11 号館に出入りする際は、指定の出入り口を使用してください。

< 研究発表 >

1. アーサー・ミラーの小説『焦点』について
ユダヤ的視点から見た作品の重要性 (15:10-15:40)
発表者: 河内 裕二 (明星大学)
司会者: 君塚 淳一 (茨城大学)
2. The Garden Party 五感を通じての表現方法 (15:50-16:20)
発表者: 丹羽 正子 (昭和女子大学短期大学部)
司会者: 森本峰子 (日本女子大学)
3. アメリカ先住民とアイヌ 土地政策と教育政策における共通点 (16:30-17:00)
発表者: 黒岩 裕 (青山学院女子短期大学)
司会者: 佐久田英子 (拓殖大学)

研究発表レジュメ

1. アーサー・ミラーの小説『焦点』について
ユダヤ的視点から見た作品の重要性

河内 裕二

反ユダヤ主義を扱ったミラーの小説『焦点』(1945)は、『セールスマンの死』や『るつぼ』といった劇作品に比べてこれまで注目されることが少なかった。反ユダヤ主義は戦後サルトルの『ユダヤ人』(1954)によってその本質が明らかにされたが、『焦点』はそれ以前の第2次大戦終戦の1945年にサルトルとおよそ共通する見解を小説で表現している。またユダヤ系作家であることを強調されるのは少ないミラーだが、『焦点』に見られる「普遍的人間としてのユダヤ人」という要素は、戦後のユダヤ系作家躍進のカギでもあり、とくに同時代のユダヤ系作家バーナード・マラマッドの『アシスタント』(1957)などには顕著であって、両作品には共通点も存在する。今回とくにこの2点に着目し、これまであまり注目されなかった『焦点』の重要性について考える。

2. The Garden Party 五感を通じての表現方法

丹羽 正子

キャサリン・マンズフィールドの代表作とされる The Garden Party には主人公 Laura の開眼物語、階級社会、楽園と外界、生と死など多くのテーマが読み取れる。今回の発表では、作品の随所に見られる五感を通じての表現方法に焦点を当て、マンズフィールドが楽園と外界、生と死などをどのように描き別けているかを、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚に別けて分析し、なぜ彼女が文章の魔術師と呼ばれるかを探るものである。特に聴覚においては、実際に作品朗読を聞きながら、作品への効果を検証する。

3. アメリカ先住民とアイヌ 土地政策と教育政策における共通点

黒岩 裕

明治期のアイヌ民族に対する土地政策と教育政策は、当時のアメリカ先住民政策を雛型として立案されたものと考えられる。土地政策に関しては、アメリカの「ドーズ法」(1887年成立)と日本の「北海道旧土人保護法」(1899年成立)を比較する。両者は、先住民の土地の分割と個人所有を強制的に推し進めたこと、更に先住民の農民化を図ったことなど、いくつかの興味深い共通点をもつ。教育政策については、1872年東京芝増上寺に開設されて、35名のアイヌが入学した開拓使仮学校を取り上げる。男女共学や、故郷から遠く離れた土地における全寮制教育など、当時としては斬新な試みを取り入れたこの同化教育は、アメリカ先住民に対する同化政策を模倣して立案されたものと考えられる。日米における当時の同化教育の内容を比較し、開拓使仮学校の開校に力を注いだ黒田清隆と、彼とともに北海道開拓に従事した元アメリカ農務長官ホーレス・ケプロンが果たした役割を分析する。

懇親会は、例会の後5時半より始めます。会費4000円は当日申し受けます。
 今年の忘年会をかねますので、ご多用の方は懇親会のみでもご参加下さい。
 懇親会の会場は、フレンチ・レストラン lee scorpion (港区南青山 5-12-24 Tel
 03-3406-0112)です。

アクセス (<http://www.kiwa-group.co.jp/leescorpion/lee.html>)

平成15年度学会暦

平成15年度学会暦				
	フォーラム2003	第21回大会	第112回例会	第113回例会
例会・大会	6月15日	9月13日	11月15日	平成16年3月13日
発表申込締切		4月20日	9月14日	平成16年1月14日
会報投稿締切	55号=5月9日	56号=7月8日	57号=10月9日	58号=平成16年2月1日
『英米文化』投稿締切	平成15年10月31日			

来年度は6月の例会に代えて、フォーラム2003を開催いたします。前回のフォーラム同様ふるってご参加ください。

『英米文化』投稿締め切り迫る

『英米文化』第33号の投稿締め切りは10月31日です。投稿に関してのご質問は学術担当の田邊治子理事 (Eメール: tanabeh@dh.catv.ne.jp Tel: 03-3722-0235 Fax: 03-3721-9235) までお寄せ下さい。

分科会担当理事からのご報告

英語教育分科会は会員皆様の全員一致により、解散いたしました。

「フォーラム2003 受験英語を考える」の予告

来年の6月15日の例会の代わりに、今年3月に行ったフォーラム2002に続く、フォーラムを開催します。(場所は未定)

日本人が英語が話せないのは、受験英語が良くないのだ。「文法中心の教育で、難しい英文ばかり読まされて、英文和訳や誤文訂正など面白くもないものばかり。だから6年間も英語を勉強しても英語力なんかつきこないよ。」これがよく耳にする、不満である。しかし本当にそうなのだろうか。受験英語はそんなに英語教育をゆがめているのだろうか。もしそうだとしたらどのような解決策があるのだろうか。このような問題意識で、大学受験の英語を考えてみたいのです。

フォーラム2003 実行委員長

小野 昌

事務局からのお知らせ

学術会議への第19期学術研究団体登録が完了しました

かねてから申請しておりました第19期学術研究団体登録が完了したとの連絡を9月13日付けで日本学術会議から受けました。これであと2年間の登録団体として活動できますことを報告します。

メールアドレス変更の場合はご連絡をください

最近では会員の中でメールアドレスの変更が増加したようです。お届けいただいておりますメールアドレスに連絡を差し上げたら、アドレスが無効としてメールが帰ってくる場合が若干見受けられます。最近学会事務局からメールが来ないなと思っていらっしゃる会員は、一度、事務局までお問い合わせください。

会員名簿について

平成 14 年度版の会員名簿をこの会報に同封して送らせていただきます。お取り扱いにはご注意ください。

会員の動き

【新入会員】

省略

【住所変更（新住所）】

省略

住所などに変更がある場合は

渉外担当理事吉田（tyoshida@cc.teu.ac.jp）までご連絡ください。

財務からのお知らせ

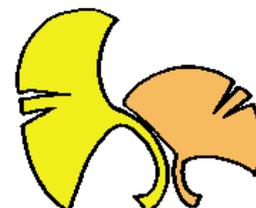
近年、学会費の納入率が低下致しております。年度内の納入にご協力願います。

なお、納入状況が不明の方は財務担当理事（大東）まで E-mail(daito@human.ac.jp)にてお尋ね下さい。

学会費 5,000 円

郵便振替口座番号：00160-7 611777

加入者名：英米文化学会



英米文化学会会報 第 53 号

編集 / 発行：英米文化学会

編集責任者：石山伊佐夫（広報担当）

〒224-0028 横浜市都筑区大榎西 3-3-1001

045-592-6570

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

問い合わせ先 英米文化学会事務局 佐藤治夫 03-3219-8160 ファックス 03-5204-8787

E-mail: shakey23@tky.3web.ne.jp 学会ホームページ <http://www.osk.3web.ne.jp/~shakey23/indexj.html>